

## Q 鶴ヶ島市の農業について

ふじわら 藤原 けんし 建志 議員



**A** 現状は厳しいが、農業、農地を守っていくために協力していく

**問** 農地面積の現状は。

**答** 令和2年1月1日現在、418・6 ㍊である。平成30年と比較し、7・5 ㍊減少している。

**問** 新規就農者の現状は。

**答** 現在農業経営に従事しているのは11人である。課題は、自身の農地がない、初期設備投資に費用が掛かる、親の技術指導等のサポートがないことである。就農後の数年は、経営的に大変

厳しい状況にある。

**問** 有機栽培に取り組む農業者への支援は。

**答** 25年につるがしまゆうきの会が発足している。これまで保育園等に同会を紹介するなど、出荷や販売につながる支援を行ってきた。また、農産物の信頼度を高めるためのJAS認証や研修の情報提供なども行っている。



鶴ヶ島市農業交流センター

## Q 鶴ヶ島市財政の今後の予想について

たかはし けんじ 高橋 剣二 議員



**A** 持続可能な財政運営を推進していく

**問** 農産物のブランド化への支援は。

**答** 里芋やネギ、入間ゴボウを市の推奨農産物としている。鶴ヶ島産野菜シールの印刷、配布や市役所朝市の開催などによるPR活動などを実施していく。

**問** 市民農園への支援は。

**答** 市民農園開設支援制度を設けている。年間10万円を限度として、1平方メートルあたり50円の補助金を交付している。



市役所庁舎

**問** 次年度以降の市税収入の見込みは。

**答** 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による個人消費の減少など、経済状況の悪化に伴う市税の大幅な減収は避けられないと考えている。

**問** 地方交付税や国県支出金の見込みは。

**答** 地方交付税は、4年度以降の国の方針が示されていないため、不透明な状況である。国県支出金は、社会保障分野が増加し、建設事業関係は状況により増減すると見込んでいる。

**問** 現在の市債残高と今後の推移について。

**答** 元年度末時点の普通会計へ

1スで約175億円である。今後、5年程度は同規模で推移するものと見込んでいる。

**問** 市債残高のキャパシティは。

**答** 早期健全化基準を基に試算した場合、約600億円となる。

**問** 大規模事業の執行の見直しについて。

**答** 財政フレームを指標として、毎年度必要に応じて見直す。

**問** 今後の財政運営の在り方について。

**答** 第6次鶴ヶ島市総合計画とも歩調を合わせ、財源の確保や将来負担の軽減に取り組む、持続可能な財政運営を推進する。